

ハード・ソフト 両面のバリアフリー

共生社会ホストタウン 田川市の活動計画



ハード面（ユニバーサルデザインのまちづくり）



●トレーラーハウス合宿所の整備

東京2020パラリンピック競技大会事前キャンプのバリアフリー宿泊施設として整備。以降は、障害者スポーツ大会や練習で活用するほか、移動できる利点をいかし、災害など緊急時の避難場所としても活用します。

※写真はトレーラーハウスのイメージ



●市総合体育館バリアフリー化

本年3月までに、段差がない通路、十分なスペースと機能を備えたトイレ・シャワールームなど、当事者の目線で使いやすいバリアフリー化を実施。今後、エレベーターの設置や駐車場の改修などを計画しています。

ソフト面（心のバリアフリー）



●心のバリアフリー研修の定期開催

パラリンピアンへの講演や車いす体験などを実施。市職員のほか、企業や団体、市民を対象とし、産官学民一体となった取り組みに拡大していきます。

●小学校などで障害者スポーツ体験教室を実施

ブラインドサッカーやボッチャなど、障害者スポーツの体験を通して、障害者への理解を深め、共生社会の担い手としての心を育みます。

●福岡県立大学との連携

地元「医療・福祉の専門大学」があるという強みをいかし、学生・留学生などによる通訳や福祉的サポートの分野で連携を図ります。

●バリアフリーマップの作製

市の公共施設のほか駅周辺などのバリアフリー情報を集め、障害者や高齢者などが活用できるマップを作製します。

人を育て、まちを創る

障害の有無、年齢、性別、国籍、人種などにかかわらず、すべての人が快適に過ごせることができる「ユニバーサルデザイン」のまちづくりは、簡単にできるものではありません。先進的な取り組みや当事者の声から学び、時間をかけて人を育て、まちを創っていくことが必要です。そのためには10年・20年先を見据え、動き出さなければなりません。

本市は本年3月までに、障害者スポーツの拠点となる市総合体育館のバリアフリー化を完了し、障害者や高齢者などが安全に気持ちよく使える環境を整備しました。今後はエレベーターの設置や駐車場の改修などを進める計画です。懸念は、バリアフリーの「宿泊施設」。市総合体育館を拠点にスポーツ合宿などを実施するにあたり、近隣にバリアフリーの宿泊施設がないため、2020年までに車いす対応型の「トレーラーハウス」を敷地内に設置して課題をクリアする予定です。また、人を育てる取り組みとして市職員向けの研修会を実施。白杖や車いすの体験とサポート方法のほか海外の文化を学ぶ機会を設けました。この研修会は現在、対象を企業や市民などに広げ、定期開催して市全域に「心のバリアフリー」を浸透させるべく力を入れています。

昨年11月から公募が始まり、現在全国で13件が共生社会ホストタウンに登録されています。本市は、5月29日に飯塚市とともに県内で初めて共生社会ホストタウンに登録。障害者スポーツ推進都市「福祉のまちたがわ」の構想を掲げ、ハード・ソフト両面のバリアフリー化を急ピッチで進めています。

加速する「福祉のまちたがわ」への歩み

共生に あがる。

2020年を機に、「このまちを変える。東京2020パラリンピック競技大会を約1年後に控え、障害者スポーツ推進都市「福祉のまちたがわ」の実現に向けた歩みは、すでに始まっています。

共生社会ホストタウン

8月19日、本市はドイツのハンブルグに赴き、東京2020パラリンピック競技大会に出場するドイツ車いすフェンシングチームの事前キャンプ地を田川市に決める協定を締結。「事前キャンプ誘致」という悲願が現実のものとなりました。

実は、この大きな快挙を目前に控えた5月、2020年を機にまちを変えていくプロジェクトがスタートしました。それが「共生社会ホストタウン」です。これは、国と地方自治体が連携する事業で、障害のある海外の選手たちを迎えることをきっかけに、ユニバーサルデザインのまちづくりと心のバリアフリーに向けた自治体ならではの特色ある取り組みを進め、その成果をレガシー（遺産）として2020年の大会以降も発展的な取り組みにつなげることが狙いです。



パラスポーツ体験イベント(8月5日)で車いすバスケットボールを楽しむ子どもたち

応援をお願いします
企業版ふるさと納税



11月から、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機にしたスポーツ振興などに活用する「企業版ふるさと納税」の受け入れをスタートしました。本市は、「企業版ふるさと納税」などによる支援を財源に、ドイツ車いすフェンシングチームの受け入れのほか、障害者スポーツの合宿などに必要なバリアフリーの宿泊施設（トレーラーハウスなど）の確保を目指しています。

- 寄付できる企業
市外に本社がある企業（10万円以上の寄付が対象）市内に支店や営業所がある場合でも、本社が市外にあれば対象となります。市内の支店や営業所から本社への呼びかけをよろしくをお願いします。
- 税の優遇措置
寄付した場合、現行の損益算入による税の軽減効果（約3割）とは別に、寄付額の最大で3割が企業の法人関係税から控除されます。

※制度概要や申し込み方法など詳しくは総合政策課（☎85-7101）に問い合わせください。

ドイツ車いすフェンシングチーム
公開練習 in 田川

「2018年IWAS車いすフェンシングワールドカップ京都大会」（12月13日～16日）に出場したドイツ車いすフェンシングチームが本市を訪問します。2020年にキャンプを実施するために会場を視察するほか、公開練習を実施します。パラリンピックに出場する選手の本格的な練習を見学できる貴重な機会です。

- とき 12月18日（火）10時～12時
- ※練習時間などが変更になる場合があります。詳しくは市ホームページをご覧ください。



ボッチャ体験・人権教室

子どもが学び、未来を創る



障害者スポーツ体験と人権教室を市内の小学校（伊田・大浦・金川）で開催。子どもたちは、目標となる白い球に赤と青の球を投げ、目標への距離を競う「ボッチャ」（東京2020パラリンピック競技大会正式種目）に挑戦。チームで協力すること・相手を尊重することなどスポーツや人権尊重において大切な心構えを学びました。

にもさまざまな形で市民レベルの取り組みが積み重ねられてきました。障害者や高齢者、外国人などの生活や社会参加を支える人や団体が地域で活動しており、そこに蓄積されたノウハウや人材の力は、共生社会を実現する原動力になります。

市は、国や県だけではなく、地域と連携し「福祉のまちたがわ」への歩みを加速します。心の壁を乗り越え、誰もが共生社会の担い手となる未来を目指し、共生社会ホストタウンとして市民が参加できるさまざまな事業を実施します。ふるさと田川をすべての人が暮らしやすいまちに変えていくためには、みなさんの力が必要です。

心のバリアフリー研修会

理解と経験で心の壁を乗り越える



3回目となる今回は、11月16日に市民を対象として開催。約50人が2人1組で障害者とサポート役を担い、車いすに乗ったりアイマスクを着けて白杖を使ったりして、通路や段差、階段を進むときの注意点やサポート方法などを学びました。また、市国際交流員などが講師を務め、ドイツ文化や心のバリアフリーの必要性などを説明しました。

※1月19日（土）に車いす体験講座を実施します。詳しくは9ページをご覧ください。

パラスポーツ体験イベント

一緒にプレイしてわかる面白さ



8月5日に市総合体育館で「パラスポーツ体験イベント」を開催。市内外から約140人が参加し、車いすバスケットボールやウィルチェアラグビー、バドミントンなど9種目を体験しました。

INTERVIEW
元車いすバスケットボール全日本代表選手 **近藤 勝己**さん（糸田町）
競技から離れて久しいですが「パラスポーツ体験イベント」を知り、一念発起で参加しました。現役選手や子どもたちと一緒にプレイする中で、楽しさや面白さを再認識しました。障害者スポーツは、健常者と一緒にできます。年齢差があっても協力してプレイできます。障害の有無に関係なく、一緒にスポーツを楽しむ人が増えることを願っています。

2020年の先へ
TO THE NEXT STAGE
加速する



市民とともに
障害の有無、年齢や性別、国籍など、さまざまな違いを越えて人が交流し、積極的に社会参加することが当たり前になった現代。お互いの多様な在り方を認め合える「共生社会」の実現は、今後のまちづくりの必須条件となり得ます。共生社会を形成する動きは、今に始まったものではなく、これまで

ドリーム音楽隊結成10周年

音楽や芸術も「共生」のステージ

ドリーム音楽隊は、目や身体が不自由な人たちとボランティアスタッフで平成20年に結成した音楽隊です。楽器や曲を一から覚え、挑戦を続けて10年。現在は福祉施設や小学校を訪問して音楽を届けています。田川市さわやかまちづくり提案事業を活用し、9月9日に田川青少年文化ホールで10周年記念コンサートを開催。笛や太鼓、ハーモニカなど多彩な楽器を駆使して「少年時代」や「夕焼け小焼け」など懐かしの曲を披露し、たくさんの来場者から大きな拍手が送られました。音楽隊の平塚春喜会長は「最初は不安だらけでした。しかし、障害のある人ない人関係なく、たくさんの人の支えがあったからこそ、明るく楽しく続けることができました」と思いを語りました。

